

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 9 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520809

研究課題名(和文) 戦後内戦期から人民共和国初期に至る<国家-社会>関係の転形と再構築

研究課題名(英文) The process of transformation of the State-society relations from the Nationalists Party rule in postwar period to early years of the Communist Party rule (1945-1955) in China

研究代表者

金子 肇 (Kaneko, Hajime)

広島大学・文学研究科・教授

研究者番号：70194917

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究計画の目的は、戦後国共内戦期から中華人民共和国初期の中国を対象に、国家・社会関係の変容と再構築の過程を明らかにすることにあった。研究メンバー3人が、それぞれ都市(知識人の思想・イデオロギーを含む)と農村について、国民党政権・共産党政権の諸政策と社会勢力との関係を分析した。従来、この時期における国家と社会との関係を包括的に分析した研究は見られなかった。したがって、本研究計画の実証的成果は、中国近現代史研究に新たな知見を提供するものである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to analyze the process of transformation of the State-society relations from the Nationalists Party rule in postwar period to early years of the Communist Party rule (1945-1955) in China. Three members of this project take partial charge of our research about various policies of the Nationalists Government and the Communists Government against social forces such as entrepreneurs, intellectuals in urban area (Shanghai), peasants in rural area (Sichuan). There was no research like our project which analyze the relationship between state and society in this era of China comprehensively. Therefore, positive results of this study will be provided new insights to study in China modern history.

研究分野：中国近現代史

キーワード：中国近現代史 戦後内戦期 中華人民共和国 上海 四川 同業団体 リベラリズム 基層社会

1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、中国において档案史料(文書史料)の公開が進んだため、歴史学的分析の中華人民共和国期への参入が可能となり、実証研究の急速な進展がもたらされた。そのなかで、1949年革命前後の歴史的な断絶を過度に強調する認識も大幅な修正を迫られることとなり、清朝末期・中華民国期、さらには近代以前の専制王朝時代から人民共和国に継承された、あるいは変容しつつも温存された諸要素を検証しようとする動きも活発となった。本研究計画は、そうした研究状況を背景として構想されたものである。

国家・社会関係は、かつての「東洋的専制主義」(専制国家と共同体)の議論を持ち出すまでもなく、戦前より中国史全体の理解に関わる大テーマであった。ところが、この大テーマのなかで、戦後内戦期から人民共和国初期(1949年前後)における政治的・社会的変動の歴史的含意を検討しようとする試みは、残念なことにこれまで見られなかった。中国史の長期的パースペクティブを踏まえ、このテーマに向かって実証研究を総合化していく作業は、中国史、ひいては歴史学の魅力を新たに開拓することにも繋がっていくものと考えられる。

2. 研究の目的

中国近現代史における戦後内戦期から人民共和国初期に至る時期(1945~55年)は、内戦に敗れた国民党政権が崩壊し共産党政権が社会主義化に傾斜していく歴史的な大転換の時代であった。本研究計画の目的は、上述した研究状況の背景を踏まえつつ、この激動する時代を、中国における国家・社会関係が転形し再構築されていく過程として捉えなおし検討することにある。

具体的には、国家権力の社会への浸透如何、国家による社会の制度的組織化如何という視点に立ち、国家が社会を掌握・統制できず社会の自立性が顕著であった戦後内戦期(国民党政権期)から、国家が社会を包摂・管理する人民共和国期(共産党政権期)への推移を、都市社会と農村社会の実態に即して多面的に描き出すことをめざす。

3. 研究の方法

(1)本研究計画が対象とする時期は、農村を基盤として内戦に勝利した共産党だけでなく、国民党にとっても農村社会に深く浸透することが内戦を優位に進めていくための重要な要件であった。一方、都市を拠点に内戦を戦った国民党は都市社会を十全に把握していたわけではなく、内戦の過程で都市に進出した共産党にとっても、人民共和国建国後に都市社会を如何に管理していくかという問題は深刻な政策課題であった。したがって、本研究計画の目的に接近するためには、都市と農村の双方を視野に収める必要がある。しかも、都市・農村の主要な住民である商工業者と農民に注目するだけでなく、知識人とその思想、そして彼らを育んだ都市の条

件と国家との関係にも、同等の注意が払われなければならない。

(2)都市の分析対象は上海とし、商工業税政と同業団体の関係、及びその変容を国家による納税戸=商工業者の把握、同業団体の再編等に注目し考察するとともに、リベラルな知識人及びその思想を生起・成長・伏流させた都市社会の変化を、国家の政策展開との関連から分析する。

(3)農村の分析対象は四川省ないし上海近郊の農村として、対象時期(とくに人民共和国初期)における農村社会の実態と国家による秩序構築の試みを分析課題とする。

(4)都市・農村それぞれの実証成果を包括的に分析することによって、戦後内戦期から人民共和国初期に至る国家・社会関係の転形と再構築という命題について具体的なイメージを獲得する。

(5)以上の方法・視角に基づき研究を進めていく上で、「研究実施の基本的サイクル」として<国内外における史料の発掘・収集・解析—メンバー各自の個別実証研究の深化—研究発表・論文発表を通じた相互の意見交換—方法・視角・問題意識の検証と再構築—国内外における……>の反復と積み重ねを重視し、共同研究としての機能性を高めていく。

4. 研究成果

(1)研究代表者の金子肇は、人民共和国初期の1950年代前半に展開された抗米援朝運動の下で同業団体が制定した「愛国業務公約」に注目し、上海の工商同業公会と共産党市当局の同業秩序統制との関係を分析した学会報告を行い、個別実証論文として公表した。また、同時期に共産党政権が実施した「工商業税民主評議」(同業団体による営業額の評定とそれに基づく営業税の納付)を詳細に検討し、共産党税務当局と「民主評議」に参加した工商同業公会との矛盾・対立を論文としてまとめるとともに、台湾で開催された国際学会において戦後中国の貨物税制度の実態と同税政をめぐる上海の同業団体と税務当局との軋轢について報告を行なった。さらに、日中戦争前の1930年代にまで視野を拡げ、土酒(地酒)業者の脱税をめぐる行政訴訟を分析し、本研究計画が対象とする時期の同業団体の活動を、より長期的な文脈のなかに位置づけようと試みた。また、本研究計画期間に蓄積した以上の成果を総合する形で、近現代中国の税政と同業団体による同業者統制について包括的にまとめた学会報告を行い、清末から人民共和国初期に至る同業団体と国家権力との関係の変容過程を系統的に整理した。

本研究計画における金子の研究成果は、上海市档案馆所蔵の税政・同業公会関連档案を大量かつ系統的に利用したものであり、従来の実証的研究水準を高めたものとして価値がある。また、平成28年度から採択される科研課題「近現代中国における国家、税政と

同業団体(研究代表者:金子、基盤研究(C))に、これらの成果は継承・発展され、中国近現代史全体のなかに体系的に位置づけられていくはずである。

(2)研究分担者の笹川裕史は、これまで培ってきた農村基層社会史の視点を生かしつつ、戦後内戦期の四川省を対象とした退役軍人・出征兵士家族に対する社会的支援の分析、朝鮮戦争期における兵役負担者援護事業を対象とした農村基層社会の実態に関する分析、日中戦争期から戦後内戦期に至る中国の総力戦体制と戦時動員が農村基層社会に及ぼした影響の考察、日中戦争期における国民政府の戦時動員と災害との関係性、といった斬新なテーマを扱った論考を相次いで公にし、高い評価を得た。

また、論文の公表とともに、戦後国共内戦・朝鮮戦争等を対象として総力戦が中国基層社会に与えた影響について学会報告を行うとともに、戦争と災害との関係性という中国近現代史研究における未開拓な分野をテーマにしたシンポジウムにも参加した。これらの研究報告の内容は、何れも上記の学術論文に反映されている。

(3)同じく研究分担者の水羽信男は、これまで蓄積してきた知識人・リベラリズム研究の基礎の上に、日中戦争前の1930年代から1950年代にかけての上海を対象として、社会主義の受容へと傾斜する都市社会で苦悩したリベラリスト章乃器について著書を刊行した。リベラルな知識人の思想を都市社会の変化のなかに位置づけ考察した点で、本研究計画のテーマに即した貴重な成果といってよい。また、中華民国期から人民共和国初期に至るリベラリストの動向を追求する作業の一環として、胡適、羅隆基、儲安平、王造時を取り上げ彼らの政治思想の展開を考察する論文を発表した。さらに、台湾で開催された国際学会において、日中戦争終結前後におけるリベラリストの国際情勢認識を整理した報告を行うとともに、本研究計画期間における研究を総合する形で、1930年代から40年代に至る中国リベラリズムの推移を総観する論文を公表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計6件)

1. SASAGAWA Yuji, Characteristics of and Changes in Wartime Mobilization in China: A Comparison of the Second Sino-Japanese War and the Chinese Civil War, *Journal of Modern Chinese History*, volume 9, number 1, 査読無, 2015, pp.66-94

2. 金子肇, 戦前中国の地酒商人, 地酒税と南京国民政府 - ある行政訴訟をめぐる -, 地域アカデミー(地域アカデミー2013公開講座報告書), 第11号, 査読無, 2014,

pp.5-20

3. 金子肇, 抗米援朝運動と同業秩序の政治化 - 上海の愛国業務公約を素材に -, 歴史学研究, 第923号, 査読有(投稿論文), 2014, pp.18-32

4. 金子肇, 人民共和国初期の工商業税民主評議と同業団体 - 上海の工商同業公会を対象に -, 史学研究, 第284号, 査読有, 2014, pp.22-44

5. 笹川裕史, 朝鮮戦争期中国基層社会における兵役負担者の援護 - 四川省西部地区を素材に -, 歴史学研究, 第906号, 査読無(依頼論文), 2013, pp.14-24

6. 金子肇, 近代中国における民主の制度化と憲政, 現代中国研究, 第31号, 査読無, 2012, pp.3-19

[学会発表](計9件)

1. 金子肇, 中日戦争後中国の税政と工商同業公会: 以上海の貨物税制度を素材に, 「中日戦争衝撃下の亜州」国際シンポジウム, 2015年12月19日, 台北(台湾)

2. 水羽信男, 自由主義知識分子的国際情勢観: 1945年前後を中心, 「中日戦争衝撃下の亜州」国際シンポジウム, 2015年12月19日, 台北(台湾)

3. 金子肇, 戦後上海の税政と工商同業公会 - 貨物税制度を素材に -, 広島中国近代史研究会月例会, 2015年12月12日, 広島大学霞キャンパス(広島県広島市)

4. 金子肇, 近現代中国の税政と同業者統制 - 上海における同業団体の動揺と解体 -, 中国基層社会史研究会ワークショップ, 2015年7月18日, 上智大学四谷キャンパス(東京都)

5. 笹川裕史, 1940年代中国の戦時体制と災害, 史学会第112回大会公開シンポジウム(招待講演), 2014年11月8日, 東京大学本郷キャンパス(東京都)

6. 金子肇, 曾田三郎『中華民国の誕生と大正初期の日本人』をめぐる - 中国史の立場からのコメント -, 広島中国近代史研究会月例会, 2014年3月18日, 広島大学霞キャンパス(広島県広島市)

7. 水羽信男, 第二次世界大戦と中国的民主主義運動: 以戦国策派を中心, 「第二次世界大戦背景下的中日戦争」国際シンポジウム, 2013年9月14日・15日, 重慶市(中華人民共和国)

8. 笹川裕史, 中国的総力戦と基層社会: 中日戦争・国共内戦・朝鮮戦争, 「第二次世界大戦背景下的中日戦争」国際シンポジウム, 2013年9月14日・15日, 重慶市(中華人民共和国)

9. 金子肇, 抗米援朝と同業秩序の政治化 - 上海の愛国業務公約を素材に -, 広島史学研究会2012年度大会東洋史学部会, 2012年10月28日, 広島大学西条キャンパス(広島県東広島市)

〔図書〕(計8件)

1. 石井知章編, 藤原書店, 現代中国のリベラリズム思潮: 1920年代から2015年まで, 2015年, pp.421-446 (水羽信男執筆)
2. 史学会編, 山川出版社, 災害・環境から戦争を読む、2015年, pp.45-71 (笹川裕史執筆)
3. 深町英夫編, 東京大学出版会, 中国議会百年史 - 誰が誰を代表してきたのか -, 2015年, pp.63-82, 163-168 (金子肇, 水羽信男執筆)
4. 金俊主編, 浙江工商大学出版社, 東亜視野中的東亜, 2014年, pp.138-148 (水羽信男執筆)
5. 趙景達・村田雄二郎・原田敬一・安田常雄編, 有志舎, 東アジアの知識人 5: さまざまな戦後 日本敗戦 ~ 1950年代, 2014年, pp.174-189 (水羽信男執筆)
6. 久保亨・波多野澄雄・西村成雄編, 戦時期中国の経済発展と社会変容, 慶應義塾大学出版会, 2014年, pp.231-249, 301-319 (笹川裕史, 水羽信男執筆)
7. 潘光哲主編, 秀威資訊科技股份有限公司, 胡適与現代中国の理想追尋紀念胡適先生120歳誕辰国際学術研討会論文集, 2013年, pp.270-281 (水羽信男執筆)
8. 辛亥革命百周年記念論集編集委員会編, 岩波書店, 総合研究 辛亥革命, 2012年, pp.105-126 (金子肇執筆)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金子 肇 (KANEKO HAJIME)
広島大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 70194917

(2) 研究分担者

笹川 裕史 (SASAGAWA YUJI)
上智大学・文学部・教授
研究者番号: 10196149

水羽 信男 (MIZUHA NOBUO)
広島大学・大学院総合科学研究科・教授
研究者番号: 50229712